

## 博士論文特集にあたって —博士論文に見る研究テーマの動向—

來村 徳信

(大阪大学産業科学研究所)

本特集は、人工知能に関連する研究で博士の学位を最近授与された方々の博士論文の概要をまとめて掲載するものである。その第一の目的は、人工知能分野における新しい研究の動向を知るきっかけをつくとともに、博士論文を宣伝する機会を提供し、入手先を掲載することでより詳細な研究成果の普及を計ることにある。論文誌掲載論文などでは割愛されているような詳細な情報を含む包括的内容となっていることが多い博士論文へアクセスする機会となればと思っている。第 2 の目的は、将来の人工知能研究を担う若手研究者の研究内容と研究者自身のプロフィールを広く宣伝して、研究交流を促進することにある。抱負欄などから人柄や今後の研究の方向性を感じ取っていただければと思う。

本特集は、2000 年 1 月号から毎年恒例として掲載され、今回で 10 回目となった。今回は 2007 年 9 月から 2008 年 9 月の間に人工知能に関係する博士論文で学位を授与された方を対象に募集し、32 件という多くの応募があった。募集は学会誌とメーリングリストでの告知とともに、大学の先生方に該当される方に応募を勧めていただくように電子メールでお願いする形で行った。

第 5 回以降（第 7 回を除く）の特集では、人工知能学会全国大会の論文募集に掲載されている「論文該当分野」に従った分類調査が行われている。該当分野は、第 8 回までは担当編集委員によって判断されており、第 9 回（前回）は応募者によって指定された。今回も前回に引き続き、基本的に応募者に該当分野を選択・指定していただいた。

分類結果は以下ようになった（括弧内は順に 9 回、8 回、6 回、5 回の件数。それぞれの総数は順に 21, 42, 26, 26 である。Web インテリジェンスは 7 回以降で新設）。

1. 基礎・理論：0 (1, 2, 1, 2)
2. 学習と発見：3 (1, 3, 3, 1)
3. 知識情報インフラストラクチャ：2 (5, 4, 7, 6)
4. Web インテリジェンス：2 (3, 2, -, -)
5. エージェント・分散人工知能：4 (1, 5, 2, 3)

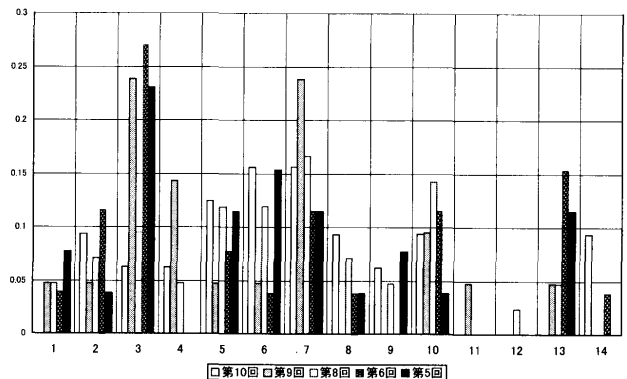


図 1 各回における掲載論文の論文該当分野ごとの件数の割合

6. 創発システム：5 (1, 5, 1, 4)
7. 自然言語：5 (5, 7, 3, 3)
8. パターン理解：3 (0, 3, 1, 1)
9. 認知と身体性：2 (0, 2, 0, 2)
10. ヒューマンインタフェース・知的学習支援システム：3 (2, 6, 3, 1)
11. マルチメディア：0 (1, 0, 0, 0)
12. バイオインフォマティクス：0 (0, 1, 0, 0)
13. AI 応用：0 (1, 2, 4, 3)
14. その他：3 (0, 0, 1, 0)

図 1 に示すグラフは、各年におけるそれぞれの分野の割合を示したものである。エージェント・分散人工知能、創発システム、自然言語が継続して比較的割合が高いことがわかる。また今回は知識情報インフラストラクチャの件数が減少し、過去の特集では継続的に応募・掲載のあった基礎と応用が 0 件ずつであること、その他が 3 件あることが注意を引く。もちろん、統計的な判断を下すには十分な数ではなく、サンプルとしてはかなりの偏りがあることにご注意をいただきたい。

最後に、応募していただいた方および応募を勧めていただいた先生方など本特集にご協力いただいた方々に感謝致します。